

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ふれあう ためす つくりだす やべっ子 きらきら かがやこう」 → つながる、チャレンジする、新しい自分を創り出す。
 ◎めざす子どもの姿【友達が好き、先生が好き。そして学校が好き、自分が好き】
 友達や先生とつながりあいながら、様々なことにチャレンジすることを通して、新しいよい自分を創り出す。
 ○主体的な学びを大切に、より良い自分を創ろうとする子を育てます。(知)
 ○自他の価値を尊重し、人を思いやる優しさのある子を育てます。(徳)
 ○命と体を大切に、進んで体力づくりや生活改善に取り組んでいこうとする子を育てます。(体)
 ○地域とのつながりを大切に、より良い地域社会のために積極的にかかわる子を育てます。(公)公共心と社会参画
 ○視野を広げながら、互いに認め合える学校や社会を創り出そうとする子を育てます。(開)未来に開く志

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

○主体性・自立心、コミュニケーション力
 「伝え合い、高め合う」前提となる、自分で考え決定し行動する力やコミュニケーション能力を培う。
 ○協調性
 ○責任を果たそうとする力
 「相手を思いやり、共に生きていく」前提となる、協調しようとする気持ちや責任を果たそうとする気持ちを培う。
 ⇒自己有用感、自己肯定感の醸成

具体化した資質・能力

☆主体性・自立心
 ○自ら課題を発見し、解決への道筋を考え、試行錯誤しながら粘り強く行動する力
 ☆コミュニケーション力・協調性
 ○人と関係性を築くための、相手意識をもちながらの聴く力・伝える力・連携する力
 ☆責任感
 ○自分の行動や行為に、責をもち、自分が決めたことは、最後までやり通す気持ち。

中期取組目標

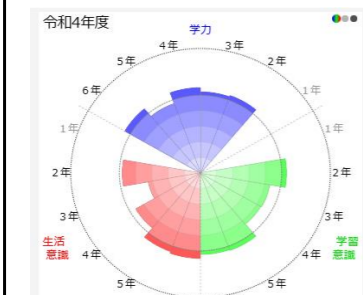
【人とのつながりを大切にしながら、安全・人権・学習を軸にした、安心して学べる学校にします】
 ○子どもたちに身につけさせたい資質・能力を明確にした、意図的・計画的な教育活動を推進します。
 ○子どもたちの現状を把握し、3つのプロジェクトで取組を進め、子どもたちの成長を育みます。
 ○授業研究を通して、子どもたちの成長を育むとともに、教員の授業力向上を図ります。
 令和4年度研究主題
 「ふれあう ためす つくりだす やべっ子」の実現に向けて
 ～確かな言語能力を身に付け、自分の言葉で表現できる子の育成～

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①日々の実践を積み重ね、確かな言語能力を育てる。②相手意識・目的意識を明確にし、思いを伝える場面を意図的に設定した単元計画を立て、子どもが自ら自分の言葉で表現する力を育てる。③授業研究や日々の研修を通して、教員の授業力向上をはかる。
担当	学力向上プロジェクト

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関する児童生徒の実態
 市学力状況調査の結果より



(1) 本校では、ははは全学年で学力は市の平均を上回っている。(令和4年度横浜市学力・学習状況調査や令和4年度実施の予備調査において)また、高学年になると学習意識、生活意識も高い。
 (2) 昨年度まで、国語の授業を中心に重点研を行い、児童の言語能力の向上に努めてきた。1年生から、掲示物や日々の生活、学習の中で言語能力を育む活動を積み上げてきた。また、相手意識、目的意識をもった発表などを各教科や総合的な学習の時間を通して回数を重ねてきた。そのため、学年に応じた言語能力の育成が一定の成果として養われてきている。

今年度の目標

- ①②様々な学習を横断的に、言語活動や伝える活動の設定
- ③研修担当とメンターによる、月一回程度の研修の設定

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①昨年度より教科を指定せず、全教員が自分自身のテーマをもって、児童の言語能力の育成に努めるようにしてきた。教科を指定しないことで、教員一人ひとりが、自分の目指したい具体の形をイメージし、授業により意欲的に取り組めるようにすることが狙いである。また、それぞれがテーマをもつことにより、一年間を見通して、系統だてて段階的に言語能力を育てていけることも、大きな狙いとなる。
 ②「書く」場、「話す・聞く」場の効果的活用として字数感覚と決められた字数で表現する力の育成を目指し、他教科やクラブ、委員会活動等のふり返りでも、字数を意識して文章を書く場面を設定する。また、朝の会や伝え合い活動等、目の前にいる相手に向かって自分の思いを伝える場面を設定する。表現力を高めるために、原稿を推敲やアドバイスを交えて変更等をするときは、元が分かるように赤などで直し、変更や学習したことが視覚的に分かるようにする。
 ③メンター研で、出された課題などに沿って、都度ミニ研修等を取り入れ、教員の指導力向上に務める。ベテラン教員に指導を仰ぎ、特に若手教員の指導力向上に務めていく。

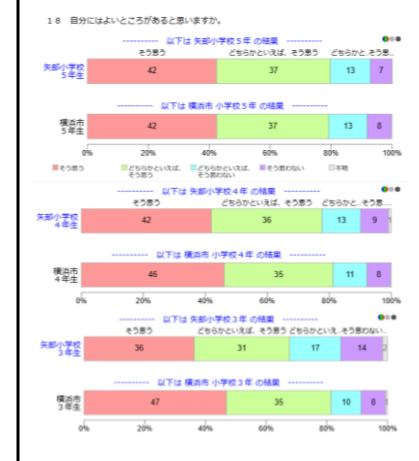
下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①挨拶の励行・歩き方指導・後片付け指導を日常的に行い、この「三つのあ」の生活ルールの定着を図り、自律的で温かな子どもたちに育てる。②学校行事・BWHの取り組み・たてわり活動など体験活動の充実を図り、お互いを認め合う心を育て、安心感や自己有用感の醸成を図る。
担当	心の育成プロジェクト

豊かな心に関わる本校の状況

本校は、閑静な住宅街の中にあり、子どもらしく素直な児童が多い。
 運動会やベアさんぼなどのたてわり活動の場面では、上級生が下級生の世話を熱心にし、下級生が上級生に親しみをもって接する姿が見られる。また、子どもたち同士の関係が深まってくると、友だちを励ましたり、なぐさめたりする優しさが見られてくる。
 しかし、深く考えずに友だちに追従してしまったり、自分の嫌なことをはっきりと断れなかったりと、善悪の判断を自己決定したりすることが難しい児童もいる。また、自己肯定感、有用感がやや低い児童があり、令和4年度意識調査の結果からも横浜市の平均と比べて自己意識の低さが窺われる。



今年度の目標

- ①児童が自主的・自発的に「三つのあ(挨拶、後片付け、歩き方)」に取り組めるようになる。②他者との交流や体験的な活動を通して、自己有用感の醸成をめざす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①児童の各委員会で「三つのあ」を定着させるためにできることを考え、全校児童に発信するように促し、児童が主体的に取り組めるようにする。
 例:運営委員会・・・あいさつ運動、あいさつロード 保健委員会:カメさんウォーク
 ②各学年行事やBWHに向けての取組、当日の活動を通して、自分らしさを発揮する表現力、最後までやり通す力、互いの良さを認め合う力を育てる。
 ・「一人一役」の実行委員の取組により集団の一員として自分の役割をやり遂げることに達成感や味わい、自己有用感を高める。
 ・クラブ活動や運動会、「たてわりさんぼ」などのたてわり活動を通して、異学年同士の思いやりの心や協力しようとする心情を育てる。
 ・教科担任制や委員会・クラブ活動など活動中に見られた子どもたちの良い部分を「白カード」などを使って担任と情報共有して児童に伝え、職員全体で児童を見守っていることが児童に伝わるとともに、自己肯定感・有用感の醸成につながるようにする。

下半期

健やかな体の育成プラン

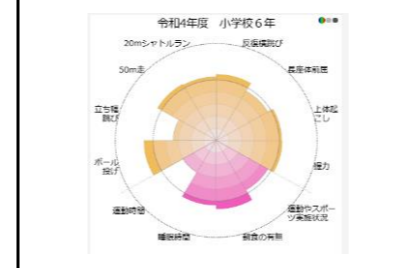
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育科学学習の充実にも努め、運動量のある授業づくりを進めるとともに、外遊びや体力づくりを推奨し、ユータムを利用した全校運動や体育委員会の取り組みを定期的実施することで、体力の向上を目指す。②保健委員会の活動や給食委員会の食育の推進により、健康づくりや健康管理の指導を充実させる。
担当	体力向上プロジェクト

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
 学年によって結果にはばらつきがある。走力(50m、シャトルラン)はどの学年も横浜市平均と同等であるが、立ち幅跳び(跳力)についてはどの学年でも共通して横浜市平均より下回っていることがあげられる。



(2) 体力の概要と要因の分析
 「運動時間の項目をみると、5年生以外の学年において、横浜市の平均を下回っている。そのことから、体力向上のために、まずは「運動時間の確保」を行うことから始めたい。



今年度の目標

- 子どもの運動の機会を増やし、授業や休み時間での体力運動を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・体育時間割を変更することにした。週2は校庭で2クラス実施(1～4年)、週1は必ずクラスで体育館体育を実施する計画を立てた。1～4年の同学年2クラスにすることで、T.Iによる指導法でT1が全体指導、T2が安全確認と評価をする連携をとって、児童の運動量確保や体力向上を目指す。
 ・教員のための実技研修を行い、簡易なルールの確認、慣れの運動から主運動まで、運動量を確保できるようにする。
 ・体育委員会やなかよし委員会によるユータムを利用した、楽しい外遊び(長縄跳び、ドッジボール)をする計画を立てて遂行する。高学年児童から呼びかけることで、子どもたちが自ら外遊びをするように習慣化していく。
 ・外遊びボランティアを活用し、スナックゴルフやタブルダッチなど、普段の休み時間や授業で行うことのできない多種多様な種目を体験でき場を提供する。

下半期